

生きるかけはし

第38号の会報をお届けします。今号では、7月にベトナムからお招きしたアインさんたちとの東京フォーラム、山形ワークショップについて、特集しました。初めてAEFAを知る方もたくさんお越しになって、ベトナムの山岳少数民族と私たちの現在と未来について考える貴重な機会となりました。参加いただいた方も、できなかった方も、アインさんたちとの充実した十日間の様子を追体験いただければうれしいです。

10月にはスリランカを訪問しました。ラオスやベトナムの現地は何度も訪れていましたが、僕自身にとって初めてのスリランカです。スリランカでは、現地の学校建設をボランティアで



スリランカの子どもたちと

支えてくださるダヤシリさんとそのご家族、そして、コロombo・ロータリー・クラブの皆さんにたいへんお世話になりました。

今回訪問したスリランカの学校は、いずれもエルセラーン1%クラブさんのご寄付によるものです。

エルセラーンの皆さんは子どもたちとの交流を楽しみに学校を訪れました。子どもたちが話す言葉はシンハラ語、まったく通じないはずですが、子どもたちとあつという間に仲良くなりました。「汽車・汽車・シュッポシュッポ♪」と歌がどこからか聞こえてきて、まず二人がトンネルをつくります。誰かが先頭に立って、その次の人は前の人の肩に両手をのせます。見よう見まねで汽車が連結していって、気付けば、なが〜い汽車になっていました。トンネルも増えていきます。トンネルくぐって、山越えて、歌声と笑い声と共に汽車はずっと走り続けていました…。

スリランカと日本はここに書ききれないほど深く長い交流の歴史があります。

ダヤシリさんは、ご自身の事業だけではなく、日本語教育学校の設立・運営などに取り組まれてきました。文字通り、スリランカと日本の「生きるかけはし」です。

国と国ばかりではなく、やはり、こうした草の根の人と人の交流こそが大切です。かけがえの無い人と人のご縁の大切さをおしみながら、これからもがんばっていきたいと思います。

AEFA マンスリーサポーター

募集中

AEFAの活動を継続的に支援して下さる「マンスリーサポーター」を募集しています。サポーターの皆様からのご寄付は、アジア山岳少数民族の子どもの可能性をひらく教育支援プログラムのために活用させていただきます。

金額（毎月）

月額1,000円（1口）から5,000円（5口）まで選択できます。
また、児童・学生の方々もご参加いただきやすいように、月額500円のプログラムも設定しました。

登録方法

寄付プラットフォームとして実績ある「Syncable」を使用しています。クレジットカード決済が可能です。

1. 右下のQRコードを読み取り、SyncableのAEFAページにアクセスしてください。
2. 「支援方法」より、「寄付する」を選択してください。
3. 「頻度」の欄で「毎月」を選び、「金額」の欄で月額を選択してください。
4. クレジット決済に必要な情報を入力してください。
5. 登録いただいたメールアドレスにSyncableからのメールが届きましたら受付の完了です。



<https://syncable.biz/>

🔍「アジア教育友好協会」で検索



個人と非営利団体を繋ぐプラットフォームサービス
Syncable（シンカブル）に登録しています



<https://syncable.biz/>

🔍「アジア教育友好協会」で検索

当サイト経由でAEFA会費・寄付のカード決済ができます

AEFA Web & SNS

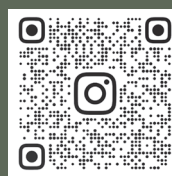
Web Site



Facebook



Instagram



私たちは各国のパートナーNGOと手を携えて活動しています。

ベトナム：Research & Communication Centre for Sustainable Development (CSD)
ラオス：Association for Community Development (ACD)
タイ：Raks Thai Foundation (CARE Thailand)
スリランカ：Rotary Club of Colombo (RCC)



AEFAフレンド会報

38号

2024年12月1日



特集

アインさんたちと過ごした十日間
ラオス 頑張る先生を応援したい
ベトナム 台風被害を乗り越えて



AEFA アジア教育友好協会
Asian Education and Friendship Association

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-22 アーバンセカンドビル 3F TEL：03-6265-6490 FAX：03-6265-6491

アインさんたちと過ごした十日間

見えてきた「共に生きる」未来への道すじ

AEFAが設立20周年を迎えた今年、2024年に、ベトナムから来日した仲間がいます。CSD (Research & Communication Centre for Sustainable Development/Children School Development) のメンバーたちです。

この20年間にAEFAは多くの素晴らしい出会いに恵まれました。信頼できる現地パートナーとの出会いもそのひとつです。AEFAが活動に関わる地域は、ベトナム、ラオス、スリランカ、タイ、そしてミャンマーから逃れたチン族難民の避難先であるマレーシアと、さまざまです。これらの地域で活動しているAEFAの現地パートナーのみなさんは誠意と情熱をもってプロジェクトに取り組んでいる方ばかりです。中には団体としての活動にとどまらず個人として、子どもたちの未来のために私財を投じて活動している方もいます。

世界の急激な変化の影響で支援地域の状況が悪化し、振り出しに戻ってしまったように感じるとき、何があっても変わらずに困難に立ち向かう現地パートナーの姿が私たちAEFAメンバーを励ましてくれます。現地のニーズについて確かな情報を得ることができるのも、日本の支援者の方々に自信をもってプロジェクトを紹介できるのも、現地パートナーのおかげです。AEFAのかけがえのない仲間です。

今年7月、AEFAはベトナムのパートナーNGOであるCSDの代表、グエン・ジエム・アインさんを日本にお招きしました。CSDとAEFAは2014年から手を携えベトナムで活動を続けています。少数民族のための学校建設にはじまり、2019年にはCSDの発案によって読書啓蒙プロジェクト「レインボーライブラリー」が生まれました。子どもたちが本を通して



山形県立図書館を見学中のアインさんたち

より広い世界を知り、夢を育むことを願って展開しているプロジェクトです。

ベトナムは、多くの日本人が「ベトナム人」と認識しているキン族（ベトナム人口の約85%を占める）のほかに、53の少数民族を抱える多民族国家です。民族の数だけ独自の文化、独自の言語があります。日本ではベトナム少数民族についての報道も少なく、彼らの直面する課題について私たち日本人が知る機会は非常に限られています。

アインさんをお招きした背景には、経済発展に伴う格差の拡大やアフターコロナの急激なインフレなど現地の状況が激しい今こそ、現地にもっとも近い人からの言葉で現地の状況をお伝えしたいという思いがありました。

7月6日、AEFAの依頼に応じて東京に到着したのはCSD代表のアインさん、CSDスタッフとして現地の学校や行政とのコミュニケーションを担うマイホアさん、アインさんの夫でCSDの活動を様々な形で支えるヒウさん、そして、アインさん・ヒウさんの次男カロットくん、小学校5年生です。彼らを迎えて、7月7日に『第15回AEFAフォーラム 山岳少数民族の教育現場から見えてくる未来』を東京 市ヶ谷で開催（以下、東京フォーラム）、7月14日に山形で国際交流ワークショップ『～図書館の「いま」と「これから」 日本とベトナムの「いま」を出発点に～』を国内の市民活動組織と共同開催しました（以下、山形ワークショップ）。このほか山形の小



7月7日、東京フォーラム会場にて

アインさんたちの招聘およびイベント開催費用の一部を「日本とアジアの未来」構築に取り組む一般財団法人MRAハウス様に助成いただきました。

また、イベント運営には多くのボランティアの方々のご協力くださいました。皆さまのサポートに心から感謝いたします。

スケジュール

- 7/6(土) 東京到着
- 7/7(日) AEFAフォーラム@東京 (JICA 地球ひろば国際会議場)
- 7/8(月) 日本科学未来館等都内見学
- 7/9(火)・10(水) ご寄付をいただいている企業訪問(東京・大阪) AEFA 事務所での交流
- 7/11(木) 山形へ移動、山形市立南小学校訪問 夜、花笠音頭体験
- 7/12(金) 山形県西置賜郡小国町立小国小学校訪問
- 7/13(土) 蔵王・上山城など山形県内観光、ホームステイ
- 7/14(日) 国際交流ワークショップ@山形(遊学館)
- 7/15(月) ホストファミリーと交流、東京へ移動、翌日ベトナムへ帰国



左上・右上) 東京フォーラム会場 左下) 発表中のアインさんと通訳する坪井 右下) ベトナム少数民族の衣類等の展示

学校訪問や、ベトナム向けに定期的にご寄付くださっている支援企業訪問を実施しました。

発見と共感の場

東京フォーラムでは基調講演としてアインさんにベトナム少数民族の子どもたちの実情と課題、およびCSDが推進している取り組みについてお話しいただきました。

男の子が出稼ぎのため学校を中退すること、いまだに児童婚があること、キン族と少数民族では言語体系が異なること、ベトナム公用語(キン族の言語)を知らないがゆえに少数民族の子どもたちは内向的になりがちなこと。そんな子どもたちが、教育プログラムの導入によって人前で発言できるようになってきたことや、将来の夢といえば身近な大人の職業を答えるだけだったのに、「もっと広い世界に行きたい」「日本に行ってみたい」と夢を広げていること。実際にベトナム奥地に足を運び少数民族の現状を目の当たりにしているアインさんだからこそ語れることばかりです。

東京フォーラム開催にあたっては、会員の方以外にも広く声をかけさせていただきました。その結果、AEFAイベントに初参加という方々を含めて90名の方が来場され、急遽会場の座席を増やしましたがそれでも満席に。参加されたのは高校生や大学生を含む若い世代の方からご高齢の方までさまざまで、中にはベトナム国籍の方もいらっしゃいました。多くの方にベトナム少数民族の現状を知っていただけたことは大きな成果でした。

印象的だったのは参加者の皆さまの真剣な表情、ときには身を乗り出し深くうなずきながらアインさんたちの話を聞くお姿、そして会場で皆さまから寄せられたたくさんの質問で



す。CSDのメンバーも参加者の熱心さに驚いていました。ベトナム人でさえ無関心な少数民族の課題に、たくさんの日本人が高い関心を寄せている。その姿を実際に目にしたことはアインさんたちにとって大きな励みとなったはずです。

レインボーライブラリーの未来につながる発見

山形では「図書館」をテーマとしてイベントや交流会を行いました。そのひとつが、山形市立南小学校と山形県西置賜郡の小国小学校訪問です。温かく歓迎してくださった両校で、ベトナムについて知る国際授業や学校図書館の見学などが行われました。

ベトナムでは学校に図書室があること自体がまだまだ珍しく、特に山奥の少数民族の子どもたちは本に親しむ機会がありません。そんな子どもたちのためにレインボーライブラリーを導入しているアインさんたち。山形で見学した学校図書館を「私たちの夢が実現した図書館」だと語っています。特に、学校図書館の運営や参加方法などが、ベトナムにおける未来の図書館のヒントとなりました。

たとえば、ベトナムでは委員会活動は少なく、先生が図書館や本の管理を行っていますが、山形の小学校では生徒が図書委員となり本の貸し出し・返却を担当したり読書啓蒙の工夫をしたりしていること。小学校二年生の本に親しむ授業を見学したとき、自分の大好きな本を読んで感じたことを伝える様子。保護者が子どもたちの読書活動に参加協力していること。学校と市立図書館との間にも連携があること。これらの発見が、今後のレインボーライブラリーの在り方や今後の教育プログラムにつながりそうです。

初めての共催イベント

もうひとつのイベント、山形ワークショップは、山形県青年国際交流機構（山形県IYEO）と共催、在山形ベトナム人協会（MSY）の協力を得て実現しました。両団体は、近年増加傾向にある外国籍の方々と山形在住の日本人との交流を担う市民団体です。AEFAが新しい交流のかたちを模索する中で、ご縁があつて数年前からこれらの市民団体とのやりとりが始まりました。共同開催という形でイベントを行ったのはこの山形ワークショップが初めてです。

山形では外国籍の人、特にベトナムからの技能実習生が近年増加傾向にあります。母国に図書館がない・行ったことがないという人も多く、日本語（＝彼らにとっての外国語）がメインという環境も含めて、ベトナム少数民族の状況と通じるものがあると考えました。

山形県IYEOとMSYのお声がけにより、さまざまな世代の日本人、そしてベトナム・ナイジェリア・アメリカ・ニュージランド・ミャンマー・マレーシア等の国籍の方たちが参加されました。まずは山形県立図書館の協力を得て図書館見学を行いました。次にアインさんからレインボーライブラリーについて説明。その後、①小中高生の子どもたち、②ゼロ歳児～未就学児とその親御さんたち、③それ以外の大人たち、の3グループに分かれて「未来の図書館」「こんな本・図書館があったらいいな」について話し合いました。会場では日本語、ベトナム語そして英語が飛び交い、まるで国際会議のようでした。

子どもたちにはかなわない！発想の広がり豊かさ

山形ワークショップで驚かされたのは、子どもたちの発想

の広がり、豊かさです。大人たちとは別室で小学生・中高生だけで未来の本・図書館について話し合ってもらったところ、図書館の既成概念を超えたユニークな図書館のアイデアが次々出てきました。「本の物語や世界を体験できる図書館」「物語に書かれたことが音楽になって聞こえてくる本」「そこに書いてある新しいテクノロジーを手にとって実体験できる本」「本の中で出てきた料理が食べられる図書館」などの想像力あふれるアイデアに大人たちはまったくありません。

私たち大人は、子どもは大人から教えられるものと考えがちです。しかし、子どもたちは大人が考える以上に考える力、行動する力をもっています。いまや日本では小学生が授業でSDGsについて学び、中高生が自らボランティア活動を行う時代です。ベトナムやラオスで展開しているAEFAプロジェクトでは、子どもが先生になる・子どもがリーダーになる教育プログラムの導入が進んでいます。山形の小学校でも、アインさんたちの歓迎プログラムを考え、準備したのは小学生たちでした。

山形ワークショップを通じて、日本におけるこれからのAEFAの取り組みの方向性 ― 子どもたちの可能性を信じ、今と未来について子どもたち自身が考えて行動できる機会を作っていく ― を確認できたと考えています。

共に生きる、とは

山形ワークショップでは、多様な国籍の方々と日本人と一緒に参加するという環境においてどんな障壁があるか、それぞれがどんな困りごとを抱えているかについて、想像力と配慮が求められました。たとえば、

- 参加する外国籍の方々の中には日本の図書館利用方法がわからない人が少なからずいる。その人たちに、どうやって1日でわかってもらうか。また、図書館側が困らないように何を準備すべきか。

- 日本語、ベトナム語、英語など参加者の言語が混在する中でコミュニケーションをどうするか。

- 懇親会には様々な食事制限のある人たちが参加する。食事をどうするか。

このほか、小さなお子様連れの参加者への配慮や、クルマを持たない・運転できない参加者の移動手段などなど、挙げればきりがありません。しかし、参加者ひとりひとりの置かれている状況や困りごとを想定し、解決方法を決めていくというプロセスを通じて、これこそまさに異なる文化の共存のために必要なことだと感じました。イベント当日にも問題が次々と発生しましたが、それを乗り越えることができたのは、参加者の皆さまが国籍や立場にかかわらず、それぞれにできることで問題解決に役立とうとしてくださったからです。

日本人・外国人に切りわけて、困っている在日外国人を日本人が助けてあげる、というように関係性を決めつけるのではなく、誰もが一人の人間としてそれぞれの困りごとを抱えていて、互いにそれを理解しようと努める、それぞれが相手のためにできることをやる。多文化共生への道すじを実感できた瞬間でした。

同じ未来へ

アインさんたちと過ごした10日間を振り返ってみて、CSDも、AEFAも、山形県IYEOやMSYも、活動の場は異なれど同じ未来を目指していると感じます。どの民族も、どの国籍の人も、どんな事情を抱えた日本人も、自分たちに誇りと自信をもって、互いの文化を尊重し、互いの事情を思いやり、温かい気持ちで共に過ごせる未来です。

同じ未来を目指す仲間がいて、それに賛同してくださる多くの方がいらっしゃるということの心強さ。そしてあらためて、国や自治体の対応に加え、人や民族それぞれに焦点を当て、バックグラウンドや困りごとを把握し丁寧に対応していくという、AEFAのような小さな団体だからこそできることの重要性を認識した10日間でした。

ベトナム少数民族の子どもたちに起きている変化や、山形で出会った子どもたちの輝きは、私たちに大きな希望を与えてくれます。アジアの少数民族がそれぞれの個性と文化を維持・発展させながら暮らしていくためにも、日本の私たちが平和で彩り豊かな多文化共生社会を実現するためにも、未来を担う子どもたちが必要な知識を得られる場、自ら考え行動する機会を作り整える取り組みを、仲間とともに、皆さんとともに続けていきます。

小さな交流大使との出会い

亀井善太郎

小国小学校の6年生と一緒に給食をいただいていたときのことです。「本と図書館のことを見に来たのなら、僕たちの活動を見ていってください。僕たち図書委員で、僕は委員長なんです。本が大好きなので…」と話しかけてくれた男の子がいました。先生の許可を得て、彼が放課後に案内してくれました。

図書委員のみなさんは、本のおもしろさを伝えるポップアップの作成や先生の推薦コメントのとりまとめなどの作業をしているところでした。これは、学校みんなが夏休みにもっと本を読んでくれるようにと行っていること、また、本の貸し出し受付のカウンターに入ることができて、本の後ろに貸し出しスタンプを押すことができるのは僕たちだけなのだと話す様子は、うれしさ、誇らしさにあふれていました。

ベトナムでは先生たちが図書館を管理していて、子どもたちに任せることはありません。アインさんたちにとって、小国小学校の図書委員の子どもたちの活躍は驚きだったようです。

もしかすると近い将来、ベトナムの学校でも子どもたちによる図書委員会が立ち上がるかもしれません。それは、小国小学校の図書委員長が話しかけてくれたことがきっかけなのです。

アインさんたちと過ごした10日間には、このほかにも忘れられない出会いがたくさんありました。そこから発見があったり、共感がうまれたり、参加者・開催者相互の学び合いがあったり。人と人が産み出す掛け算のような強い力を感じました。

ベトナムからCSDの皆さんをお招きし日本各地でイベントや交流を行うのは、実際のところ、とってもたいへんでした。でも、やっぱりやってよかったなあとしみじみ思います。それぞれの出会いを、一歩でも明るい未来につなげていきたいと思えます。



小国小学校にてベトナム国際交流会

※アインさんたちの動画や、マイホアさんの日本滞在日記、山形ワークショップの成果物、その他誌面では紹介しきれない情報を AEFA ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。



ラオス

頑張る先生を応援したい

サヴァン君からの声

通貨安と物価高騰に見舞われているラオスでは、厳しい経済状況が続いています。就職事情も悪化しており、長年一緒に活動しているNGO・ACDのニャイさんによると、南ラオスの村々では、仕事がなく、昼間からウロウロしていたり、ドラッグに溺れてしまったりしている若者の姿が多く見られるそうです。

影響は学校にも及んでいます。先生が学校に来ないために授業ができないところがあるのです。日本の常識からは想像もできない事態ですが、ラオスの教員の給与はとても低く、それだけでは生計を立てられなくて、教員をやめて出稼ぎに行ってしまうことも多いのです。

さらに、ラオス特有の事情もあります。ラオスでは正規の教員になるには、まずはボランティア教員として数年間働く必要があります。しかしその間の生活が維持できずに教員の道をあきらめるケースも少なくありません。

先日、サラワン県タオイ郡でボランティア教員をしているサヴァン君から、AEFAにメッセージが届きました。サヴァン君は31歳、2014年に教員養成校を卒業後、すでに10年のキャリアがありますが、まだ正規採用されていません。

「私は今、ジョーカン分校（AEFA支援校であるパチュドン校の分校）で教えています。村の人たちは教育に対して理解が深く、子どもたちを学校に通わせることに積極的です。子どもたちは通学が不便であるにもかかわらず、毎日学校へ来て勉強しています。

まだ教員としての給与がない私は、キャッサバ栽培で生計をたてています。生活は苦しいです。しかし私は教員の仕事を愛しているので、子どもたちの指導に情熱を注いでいます」

AEFAにできることは

31歳の働き盛りの若者が、誇りを持って教員の仕事に取り組んでいるにもかかわらず無給であるという厳しい現実。これに対する方策のひとつが、フレンド会報36号でも詳しくお伝えした「先生基金」です。これは、AEFA支援校を卒業後に高等教育機関や職業訓練校などに進学する子どもたちの学びと生活を支援するもので、教員を目指す場合は、教員養成校の間だけでなく卒業後正規採用までのボランティア教員期間にも、2023年には支援を受けた子どもたちの中から初の校長先生が生まれました。ボランティア教員サヴァン君の生活も、この基金が支えています。

このほか、学校現場での地道な取り組みも進めています。



サヴァン君と学校の子供たち

「水プロジェクト」や、養魚池プロジェクトなどです。「水プロジェクト」は学校に井戸や浄水器を設置して村に安全な水を販売して衛生環境を向上させ、水の販売益を学校運営に充当するもので、フレンド会報37号でもご紹介しました。養魚池プロジェクトは、AEFAが資材を提供して穴を掘ってビニールシートを貼りつけたりブロックを積んだりして池をつくり、そこで育てた魚を教員の食糧にするというものです。時には村人が魚を食べてしまうこともあります。それで村人の空腹が一時でも満たされるわけですから、大局的に見れば村のためと言えないことはありません。

20年前、発足当時のAEFAが目指したのが「山岳地域の、少数民族の子どもたちの学校づくり」でした。近年は現地事情の変化などによって、図書館やリーダーシップ育成プログラムなどいわゆるソフト支援の比重が増えてきていますが、教育現場である学校建設と教員の支援が基本であることには変わりありません。ラオスの現状を見るにつけ、この「AEFAの原点」を強く意識することが増えています。

今年11月に、一般寄付を集めて建設したラロ小学校が完成しました。ここは徒歩でないとアクセスできない山の上にある、無電化の村です。外国人が容易に立ち入れず、現地の開校式に参加することも難しい立地ゆえに、なかなか支援者となることができませんでした。

この村に、用途を限定しない寄付、つまりAEFAを信頼して「一番いい使い方をしてほしい」と託された資金によるプロジェクトが生まれたことに、私たちはひとつの手ごたえを感じています。これからも、厳しい状況にあるラオスの現場に対してどんな支援が必要か、私たちに何ができるかを、模索しながら少しずつ進んでまいります。



左)サヴァン君、右)養魚池施工中

ベトナム

台風被害を乗り越えて

AEFA 活動地域を台風が直撃

9月7日・8日の台風によって、AEFAの活動地域であるベトナムの北部山岳地域は甚大な被害を受けました。

ベトナムでは新学期が始まったばかり。その翌週に、現地とAEFA支援者とのオンライン交流会を5校で予定していました。準備のためにハノイのCSDとオンラインで打ち合わせをしていたところ、8日深夜、レインボーライブラリーの屋根が強風ではがれたとの知らせが入りました。ケガ人はいないらしいと聞いてひとまず胸をなでおろしつつ、不安な夜を過ごしました。

後日報道された台風被害は、想像を超えるものでした。そこでCSDと相談して、現在進行中の建設現場と過去のプロジェクトの状況を確認してもらいました。タイグエン、トゥエンクアン、バクザン、イエンバイ各省の約60校です。停電や通信事情悪化で時間はかかりましたが、9月中にはほぼすべての学校と連絡をとることができました。

AEFA建設校関連での最も大きな被害は、打ち合わせ中に第一報を受けたカムリII小レインボーライブラリーの屋根破損（P11参照）と、それにともなう図書の水濡れでした。トゥエンクアン省スアンバン小学校とアンラック分校では浸水、同省コンダ小学校では校庭の木が倒れ子どもたちの憩いの場となっていたテーブルが破損しました。ただ、地域の家屋や田畑、果樹園や家畜には被害が出たものの人的な被害はなく本当にホッとしました。

これら4校の復旧には、AEFAの長年の支援者からご紹介いただいた吉田敦男様のご寄付の一部を充当することになり、早速現地に手配をしました。

学校の「その後」も

思いがけない事態を受けて実施した確認作業でしたが、嬉しいこともありました。建設当時を知る先生と思い出話に花が咲いたり、校長先生に「10年前の開校式の写真、今でも学校に大切に飾ってありますよ」と言われたり。さらに、近年のベトナムの変化を実感した例もありました。バクザン省のリウガン分校は、スクールバス運行がはじまって本校に統合。しかし校舎はその後も公民館と地域住民のための図書館として活用されているのだそうです。

校舎を巣立った子どもたちの近況も聞きました。エンジニアになる夢を追ってベトナム最難関の大学進学を目指している卒業生や、デザイナーを志して大学で勉強中の子もいるそうです。報告するCSDのアインさんの声は弾んでいました。クリエイティブ系の仕事は、山岳地域の子どもたちにはイメー



オンライン交流会の様子

ジしにくいこともあって、今まで「将来の夢」として語られることがなかったのだそうです。しかし教育によって子どもの意識に変化が生まれ、視野が大きく広がったのです。単に校舎を作るのではなく未来を積極的に切り開く子どもたちを育てたいと願う私たちAEFAにとっても、嬉しいニュースでした。

台風に負けない笑顔で

台風通過後も豪雨が続き、緊急事態宣言が発令されたり、通学路の状況から休校となる学校も相次ぎました。予定していたオンライン交流会のうち、トゥエンクアン省とバクザン省の3校は当面延期となり、10月に入ってから改めて開催しました。

一方、被害が比較的小さかったタインホア省の2校では、予定通り交流が実施できました。子どもたちは、練習を重ねてきたパフォーマンスを披露しよう、と張り切っていました。中には、「どうしても参加したい」と、川をいかでかで渡ってきた子もいました。台風の影響で川が増水していて到着が遅れてしまったのですが、「もうすぐ来るから」と、開始の時間が過ぎても日越のみんなが到着を待ちました。

インターネットケーブルに台風被害があり通信状況は良くなかったものの、子どもたちは「どんな本が好きですか?」「また私たちの学校に来てくれますか?」と、元気な声で質問してきました。日本の支援者の皆さまも、現地の贈呈式で交流した子どもたちの成長に驚いたり、パフォーマンスに笑顔で声援を送ったり。

台風があっても、通信事情が悪くても、負けずにつながるんだ!という双方の想いが伝わってくるような、あたたかい雰囲気交流会になりました。



交流会で笑顔いっぱいの子どもたち



学校建設プロジェクト

2024年11月現在



① バンヴェン分校
レインボーライブラリー



② ノンケー中高校 図書館



③ ノンケー中高校
井戸・水タンク・浄水器



④ ファイルーシ幼稚園



⑤ ラロ小学校



⑥ オスウィンナ小中学校



⑦ ホーリーエンジェルズ女子校



⑧ ドンナム分校
取壊し予定の旧校舎



⑨ チュンミン半寄宿小中学校



⑩ ヴァンフー小学校
レインボーライブラリー



⑪ ドイホン小学校
教室で読書中



⑫ ドンティエン小学校
仮設読書スペース

完成

国名

学校名

支援者（敬称略）

VIETNAM

バンヴェン分校

レインボーライブラリー（図書館）

一般社団法人ゼブラ社会貢献支援協会(ZESCO)

少数民族児童が多く学ぶ学校です。本を読む環境を整え、11月から読書啓蒙活動を開始しました。読書教育に強い意欲をもつ司書や他の先生方から、喜びの声が届いています。写真①

LAOS

ホーコンナイ中学校 図書館

エルセラーン1%クラブ

伝統舞踊の郡大会で1等、ラオス語試験では1等、2等をとるなど優秀な成績をおさめるモデル校です。更に学校を魅力的な場にしたいと先生方が努力を続けており、その大きな一助となる図書館プロジェクトが実現しました。

LAOS

ノンケー中高校 図書館

エルセラーン1%クラブ

2019年にAEFAのプロジェクトでトイレ棟を支援した学校です。ノンケーは地域の基幹校で、生徒たちの学びを深める為に図書館プロジェクトを実施しました。写真②

LAOS

ノンケー中高校

井戸・水タンク・浄水器

ベンボン・サワディ

ベンボンさんは、日本生まれ日本育ちのラオスの方です。「祖国ラオスに井戸をつくるプロジェクト」でご支援いただきました。生徒たちは安全な水を手に入れることができました。写真③

LAOS

ファイルーシ幼稚園

トレノケートホールディングス株式会社

就学前教育の質を向上したい・・・と、小学校と同じ敷地内に幼稚園を整備。先生方は協力し合い熱意をもって授業や学校活動に取り組み、スポーツも学業も成績優秀な郡のモデル校です。写真④

LAOS

ラロ小学校

株式会社サンエルホーム、跡見学園中学校高等学校、株式会社近江兄弟社、リアンコーポレーション、日広建設株式会社 他、匿名希望

ベトナムとの国境に近い、小さな村の小学校です。ラロ村は山のでっぺんにあり、雨季には川が増水したり道がぬかるんだりとアクセスが難しいところです。児童数は少ないですが、村の子どもたちの唯一の学び舎が完成しました。写真⑤

SRI LANKA

オスウィンナ小中学校

エルセラーン1%クラブ

1994年創立時より地域の人口が増え、児童生徒数も増加。教室不足となっています。また、図書室やIT室も不足しており、2教室の新校舎を建設しました。写真⑥

SRI LANKA

ホーリーエンジェルズ女子校

エルセラーン1%クラブ

2004年スマトラ沖地震による大津波で全壊した学校の児童生徒を救済するため、村の人々が地元のキリスト教会に懇願して建設された学校です。敷地スペースが限られる中、現在の小学校校舎を2階建てに拡張しました。写真⑦

建設中

VIETNAM

ドンナム分校

一家恵理

ドンナム区域は山岳部で、点在する家々から子供たちが通う、区で唯一の学校です。築20年以上の校舎は古いものの、丁寧に手入れされています。教室不足のため、教員室も教室として使用しています。不足している2教室新校舎を建設します。写真⑧

VIETNAM

チュンミン半寄宿小中学校

一家恵理

地域の5つの分校から3年生以上の児童が学ぶ拠点校で、教育の質の向上に取り組んでいる意欲的な学校です。通学が困難な生徒たちは寄宿舎に入り、食糧の確保と栄養の充実もはかっています。小学校1-5年生は8クラスあり本来8教室が必要ですが、現在は6教室しかなく、隣接する中学校を間借りしたり、多目的室を教室代わりとしています。不足している2教室を建設しています。写真⑨

VIETNAM

ヴァンフー小学校

レインボーライブラリー（図書館）

一般社団法人ゼブラ社会貢献支援協会(ZESCO)

少数民族児童が多く学ぶ学校で、本を読む環境を整え読書啓蒙活動を実施することは言葉の学習にも大変役立ちます。先生方も読書教育に強い意欲をもっています。写真⑩

VIETNAM

ドイホン小学校/ティエンタン小学校

レインボーライブラリー（図書館）

エルセラーン1%クラブ

両校とも、バクザン省イエンテー郡にある学校です。CSDのレインボーライブラリーの活動の評判を知り、参加したいと手を挙げた地域です。先生方は読書教育に強い意欲をもっています。写真⑪

VIETNAM

ドンティエン小学校

レインボーライブラリー（図書館）

株式会社ディアーズ・ブレイン

タイ族、ヌン族ほか少数民族の児童が学びます。今年度より2つの分校が統合され、特に1年生の児童数が倍増しました。1年生がベトナム公用語を学ぶためにも、読書の活動は重要です。写真⑫

※フレンド会報37号P9リストに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
誤「一般社団法人ゼブラ社会支援貢献財団」→正「一般社団法人ゼブラ社会貢献支援協会(ZESCO)」

計画中のプロジェクト

支援者募集

詳細はお気軽に事務局までお問い合わせください

VIETNAM バンマイ小学校	タインホア省の少数民族タイ族の人々が暮らすベトナム国内の中でも厳しい貧困地域で、行政からの予算は不足しがちです。バン村の学校とお隣のマイ村の学校を統合、両村の中間地点に2つの村の子どもの学び舎を充実させます。
VIETNAM サマン分校	タインホア省のラオス国境に近い山間部の脇道を入った奥地にある小さな学校です。本校からは10キロ以上離れているため、この地域の子どものための唯一の教育の場です。現校舎の老朽化に伴って、同じ敷地内に新しい教室を建て替える計画です。写真⑬
VIETNAM ケオテー分校	モン族の子どもたちが学ぶ小さな分校です。老朽化が進み、雨漏りやタイル割れが酷く、カビも生えて不衛生な教室になってしまい、全面的な改修が必要です。トイレも新設します。写真⑭
VIETNAM フアプー分校	フアプーはタインホア省で最も貧困度の高い地域です。2~5年生児童は10キロ離れた本校へ通い、1年生は村の幼稚園に間借りして学んでいます。児童が地元で学べるよう、小学校校舎の新設を希望しています。
LAOS スクサムパン中高校 図書館	ACD(ラオスNGO) による教育支援プロジェクト「環境啓もう活動」で学校の環境整備や緑化に熱心に取り組みました。子どもたちが本に親しみ、子どもたちの居場所ともなる図書館を切望しています。
LAOS クムノムシン小学校	1985年建設の木造校舎を、村人が年々拡張したり補修しながら使ってきました。現在の児童数は89人、教員3名で複式で授業を行っています。校舎の建て替えが必要です。
SRI LANKA ランミヒタンナ小中学校	貧困地域にありながら、児童生徒の学習意欲はきわめて高く、修了試験でも良い成績をおさめています。現在の校舎では教室が不足しており、一般授業は可能ですがそれ以外の活動ができない状況です。AEFAプロジェクトとして2教室の新校舎を建設します。写真⑮



⑬ サマン分校



⑭ ケオテー分校



⑮ ランミヒタンナ小中学校

【会長・谷川洋登壇】

杉いき連文化部主催講演会

10月10日、杉並区いきいきクラブ連合会(杉いき連)文化部と区の共同主催による講演会にAEFA会長の谷川洋が登壇。「熟年世代よ、立ち上がろう」と題して、アジア各地で取り組んできた学校建設の活動について語りました。講演後は会場からの質問が相次ぎ、時間を超過するほどの大変活発な会になりました。

後日、主催者の方から「普段の講演会には来ない人が多かった。興味関心の高さを感じた」「同じ日本人がこれほどの活動をしているとは。日々ボランティア活動をしている我が目を覚まされたようだ」「みんなこの実話に驚いていた」と興奮気味の感想コメントをいただきました。この反響に谷川は

恐縮して、ちょっと照れ臭い表情になっていました。



熟年世代よ、立ち上がろう

10月10日 開演午後14時(開場午後13時30分)

今回は2005年のベトナムのバンマイ小学校を皮切りに、ラオス、タイ、中国、ネパール、スリランカ等に342校の学校を建設し建設後の自立支援プロジェクトの進捗にも寄与されている谷川さんの壮大なボランティア活動のお話です。

アジア教育友好協会
谷川洋理事長のプロフィール

1943年福井県生まれで現在、区内にお住まいの谷川さんは東大を卒業後1968年に丸紅に入社され2004年に定年退職。その後、アジア教育友好協会を立ち上げ、日本の大、中、小学校との交流プロジェクトの推進も計り現在に至っております。

入場無料・予約不要
会場 高井戸地域民生センター 2階多目的室(90席)
お問い合わせ先: 三木 03-3338-8833
<杉いき連文化部主催>

坪井未来子のベトナム遠景・近景 ③



スーパー台風YAGI襲来と、インドシナ地域のこれから

日本の夏、今年は本当に暑かったですね! そして、豪雨による甚大な被害も出ました。ベトナムとその周辺諸国も「30年来最大」と言われるスーパー台風「YAGI(日本では台風11号)」により、大きな人的、物的損害を受けました。今回は、YAGIの影響と現在置かれているベトナムの状況について触れたいと思います。

9月7日、ベトナム北部は暴風雨に見舞われ、首都ハノイの街路樹はなぎ倒され、多くの都市が水没しました。田畑だけでなく水産・畜産施設なども流され、大きな打撃を受けています。目の前のトラックが橋の崩落とともに川に落ちていく様子を撮影した動画は瞬間にシェアされ、日本のテレビでも放映されていたようです。ベトナムの死者は300人を超えました。

今回、最も大きな被害を受けたのが山岳地域でした。長雨だったため、土砂崩れや鉄砲水が各地で発生しました。被害を物語るのは、ラオカイ省バオイエン郡のヌー村です。ヌー村は167世帯、760名が暮らすタイ族の村でしたが、9月10日早朝に起きた大規模な土砂崩れの影響で家屋約40件が流され、60名以上が亡くなりました。小さな子どもたちも多数犠牲になり、ベトナム全体が悲しみに包まれました。

その後も様々な影響が残っています。例えば、台風でバクカン省にある非鉄金属会社の人体に有害な金属を含む貯水池が決壊したことにより、隣接するトゥエンクアン省チエムホア郡ビンフー地域に暮らす住民は、2か月経った今も生活用水が確保できていません。医療省の調査では、ビンフー地域内で採取したサンプルすべてが日常使用の基準に達していないとのことで、現状では住民も、地域内の学校も、寄付による飲用水の供給に頼っているそうです。こちらも少数民族



屋根が破損したカムリ川小レインボーライブラリー、濡れてしまった本を乾かしている(P7参照)



ハノイ市内の倒木の様子

が暮らす山間地域です。

「気候変動が起きたら最も大きな影響を受けるのは、最も弱い人たちだから、私は今、環境について学びたい」。ベトナムのパートナーNGO代表のアインさんはそう言って、ハノイの日越大学で気候変動について学んでいました。台風YAGI関連のニュースが更新されるたびに、彼女の恐れていたことが現実になっている、ということを私はじわじわと感じています。

一方で、環境に係る活動を、民間の立場で、特にNGOが行うことは、ベトナムでは大変難しくなっています。昨年、2023年には著名な環境活動家が多数逮捕され有罪判決を受けました。環境保護活動は、政治的な活動に結び付きやすく、政府批判、あるいは政府が利害関係を共にしている大企業への批判に繋がりがやすいため、脱税その他の罪で逮捕する、ということが相次いでいます。

気候変動にどう対応するか。開発と環境保護をどう共存させるか。自国の資源をどう守るか。島国日本だとなかなか感じづらい部分もありますが、河も森も共有しているインドシナ半島の国々や中国の間では、水やその他の資源をめぐり、激しい駆け引きが行われています。今後は山岳地域だけでなく、メコン川の水量管理をめぐる問題、南シナ海の領土問題など、かじ取りの難しい問題がさらに厳しい状態で露呈してくるでしょう。その中で、どのようなバランスを求めるか。

私たちAEFAが活動しているベトナム、ラオスはいま、このような状況にあります。その中でも、どのようなヴィジョンを持ち、どんなミッションを誰とともに実現していくのか、ということに常に考えながらひとつひとつの活動を進めていく必要があります。ベトナムやラオスでNGOとして活動しているAEFAのパートナーたちは、一步間違えば厳しい監視の対象となりがねない中、理不尽な手続きの変更などに翻弄されながらも、上位目標を見失わず、忍耐強く対応してくれています。そんなパートナーたちに改めて心から感謝しつつ、今回はこの辺で。